

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第95号

[2017年5月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第95号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで (37)

編集後記

次号の予定



メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



## 最近のメソット

皆様 こんにちは。5月になって、雨の降る日が増えてきました。メソトでは雨季に入ったようです。毎日暑い日が続きますが、ミャンマー国内はもっと暑いし洪水が起きた地域もあるんだよと、クリニックのスタッフが教えてくれました。

現地では、引き続き外科病棟で看護スタッフのサポートをしたり、日本の皆さまからのご支援で購入する備品の調整を行っています。

4月に、西日本国際財団様からご支援いただけることが決まり、5S活動として内科病棟と外科病棟の物置部屋を使いやすくするよう、調整を始めました。部屋が狭く、中身の見えない大きなケースが積んであり、シーツやエアマット、寄付で頂いた患者さん用のTシャツなどがしまわれています。必要なものを探す度に、ふたを開けては「これじゃない！どこだろう？」と片っ端から探しています。これではとても効率が悪いし、狭い部屋を有効に活用できていないため、整理棚を設置することになりました。クリニックでは、自分たちでこのような棚を作ったり、壊れたところを修理しながら使っていて、設備担当のスタッフもいます。各病棟の責任者、看護スタッフとも相談しながらどんな棚を設置しようか、みんなの意見を聞きながら準備を進めています。外科病棟で備品管理を担当しているスーパーバイザーのテテさんは、「棚ができれば、それぞれの置く場所に名前を書いたラベルを貼れば分かりやすくもいいね！」と嬉しそうにしていました。クリニックスタッフの喜んでくれている姿を見て私もとてもうれしく思います。

クリニックには海外の理学療法士からトレーニングを受けたリハビリ担当のスタッフが2名いて、エアマットの必要そうな寝たきり患者さんがいると私や看護スタッフに声をかけてくれています。以前JAMで寄付したエアマットの、本体とマットレスを接続する部分が壊れてしまって、修理に出していたものが戻ってきました。この修理も内部のスタッフが手作業で直してくれました。高価なエアマットレスが壊れて使えなくなってしまうと困るからと、病棟のスタッフを集めて、リハビリ担当のエトウさんがエアマットレスの使い方を話してくれていました。日本からの寄付で頂いた備品をみんなで大切に使ってくれている様子を見ることができて、これもまたうれしく感じたことでした。



設備担当のマネージャーと、図面を見ながら棚の設置について相談しています





リハビリ担当スタッフと看護トレーナーがエアマットのカバーを広げて、どう使ったらいいか話し合っています。



看護トレーナー、外科病棟看護スタッフ、備品担当スタッフと一緒にマーケットへ枕カバーや、ベットの横シートに使う布を探しに行ってきました。

国内から

## 地域の保健師の仕事

【東京＝ 白壁 彩】



いつも温かなご支援に感謝いたします。日本事務局の白壁 彩と申します。

大学時代より JAM の活動に参加をして早いもので4年目になります。約1年前までは看護師として病院で勤務をしていましたが、現在は地域包括支援センターの保健師の仕事を中心に活動しています。地域包括支援センターと聞いてピンと来ない方もいらっしゃると思いますので今回は簡単に今の仕事について書かせていただきます。



仕事の内容としては主に高齢者の総合相談窓口として保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士、介護福祉士等が連携を図りながら地域住民の方が住み慣れた地域でその人らしく過ごすためのお手伝いをしています。

地域に出て仕事をしていく中で、一から信頼関係を築いていくこと、地域の方々の健康を守る仕事は大変ですが、とてもやりがいがあります。約5000人規模のエリアにひとつ、地域包括支援センターは設置されていますが、受け持ちの方以外は毎日のように状態を把握することは難しく、地域活動や定期的な電話や訪問によるモニタリングにより多くても月に数回把握できる程度です。相談内容は本人自身や家族のこと、気になる近所の方について、行政から等様々です。一人一人が異なる生活背景で人生を歩んでいる分、相談内容も本当に個別的なものばかりで、多職種との話し合いや連携が欠かせません。特に最期の時を過ごす場所を住み慣れた自宅での療養を希望される時の本人や介護をする家族の意思をどう尊重していくかという意思決定の場ではいつも考えさせられます。最期の時をどう過ごしたいか？それは今をどう生きたいかを考えることと同じことであるということを開わる方々から教えて頂いています。人生の大先輩から生きた教科書を受け取りながらどんな生活を歩むべきか私自身も学ぶことばかりの日々です。彼らとの関わりを通して意識していくべきことは支援が必要な方への選択肢をなるべく多く持っていていただけるように引き出しをたくさん作ることなのではないかと思っています。病気と向き合って生きることや辛いことに直面しなければならない時、誰かに頼らなくてはならないときはこれからもたくさんあると思いますが、そういった時に家族やパートナーや友人等の大切な人としっかりと向き合ってコミュニケーションを取るといことが何より必要なことだなと感じています。自分のやりたいことを実行するための選択肢があることに感謝しながら、看護職として自分らしく毎日の小さい目標を少しずつ達成しながら楽しんで進んでいきたいと思っています。

追伸：今年から本格的にハイキングを始めました。近隣の低山のハイキングやジムでのトレーニングを始めて3月は岐阜にある西穂独標という雪山に登ってきました。海を眺めるのが好きだったので、いざ登ってみると自然を楽しみながら歩めること、頂上に着いた時の絶景に心が惹かれて今では完全にはまってしまっています（笑）自然や季節を感じながらのリフレッシュタイムにぜひオススメです。



## 国際保健医療協力のなかで (37)

【東京＝小林 潤】



日本をはじめとしてアジア地域で高齢者が医療難民になるリスクが高まっているというこ





とはよく議論にあがる。しかし難民医療における高齢者医療の課題というのは、あまり語られてこなかった。従来、難民とは中短期的なものである。しかし世界をみると今難民の問題は長期的視野にみないといけなくなっている。日本においても難民の方々の高齢化が課題となり、当然認知症や貧困の問題が課題となってきている。

これはメータオ・クリニックがみているタイにいるミャンマー難民も例外ではないのかもしれない。世界でもまれな慢性緊急状態であるタイ・ミャンマー国境を注意深くみていくことは、今後世界の難民保健医療を考える上で重要になっているのかもしれない。残念ながら難民といわれる状態が長期化する恐れがある。生まれながら難民であった子供達が青少年になり、夢や希望と現実の壁にぶち当たり暴力や薬物の脅威にさらされる。さらには青年や中年であった難民は老年として、人生の最後のときをも難民として生活することになる。

メータオ・クリニックで前川事務局長と神谷看護師が中心となって看護強化事業が進んでいる。何十年も診療活動を進めてきたのに、なぜいまさら看護なのかと思うこともあるだろう。早く適切に診断治療を行う医療が充実してきたから看護ケアが次のステップであると考えられるのが第一であろう。しかし、看護ケアが必要という声が上がってきたという背景をとらえないと、いくら外国人ボランティアが導入してもメータオ・クリニックに根付いた看護ケアにならないのではないかと考えている。

慢性疾患が増えれば当然看護ケアが重要になってくる。多くの高齢者は慢性疾患を抱える。そしてこの高齢者はどこからきて、どのような家族構成でいったいどこに住んでおりどのぐらいの収入があるのか。明らかにしていく必要があるのではないだろうか。

今、日本の高齢者医療において必要な看護ケアは、病院内だけの充実したケアだけではない。病院でケアを受けて自分の家で自立して生活できるように、また家族や地域住民の相互支援で生活ができるように橋渡しをすることが重要な役割になっている。この判断を間違えれば、病院に不必要に長く入院することになり、または退院してもまた再入院を繰り返すことになるからである。これは難民が生活する社会でもなんら変わりがないと思う。

## 編集後記

最近、コンビニのスパゲッティがかなりおいしくなっていることに驚きました。スパゲッティを家で上手に作れないので（どうしてもベチャベチャになってしまう）スパゲッティは外食で食べるものと思っていたのですが、先日、お弁当を買いに行ったコンビニで生パスタがとてもおいしそうだったので買ってみたところ、おいしい。どうやら各社こぞってパスタに力を入れているようです。色々食べてみましたが、生パスタでバジルソースがかかってじゃがいもが数個入ったやつがおいしいなあと今のところ私の心のランキング第1位です。

## 次号の予定

次号は、6月中～下旬ごろ配信の予定です。  
ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。  
支援の輪が広がっていくよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。





